

埴輪づくりのむら



姥ヶ沢埴輪窯跡 上段の窯と下段の窯がみえる。半地下式の^{あながま}窯である。



円筒埴輪・他 姥ヶ沢・権現坂の埴輪窯で焼かれた埴輪、大型品は1mを越える。

姥ヶ沢・権現坂埴輪製作遺跡

東松山市の雷電山古墳(五世紀初頭)に県内では最初の埴輪が建てられた。

大量の埴輪を窯で焼く体制が整ったのは稲荷山古墳の築かれた五世紀後半以降で、この時期の埴輪窯跡が鴻巣市馬室・地域の姥ヶ沢である。

姥ヶ沢窯跡は江南台地の開析谷奥に谷斜面を利用して上下二段に八基の窯が築かれ、二条・三条の夕方を持った円筒埴輪や馬などの形象埴輪が作られた。須恵器工人の技術を導入した時期の埴輪窯らしく、製品は須恵器状に焼かれたものが多く廃棄されていた。また、祭祀物の剣形・鏡形の石製模造品が窯の中から見つかっており、焼き上がりの成功を祈ったものだろう。

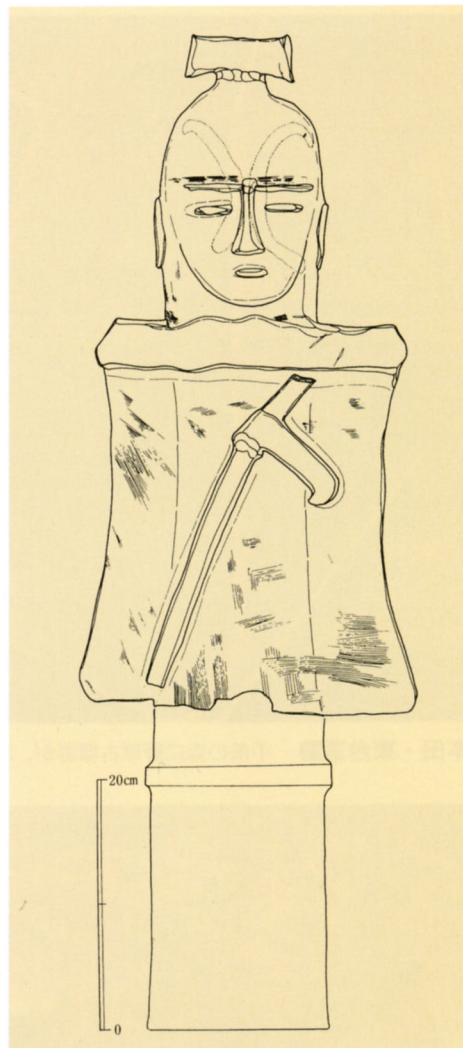
やや遅れて権現坂でも埴輪造りが開始され、粘土採掘場には廃棄された埴輪が詰まっていた。製品の埴輪は荒川の流路などを通じて流域の古墳群に運ばれている。とくに六世紀中ごろの大型の朝顔型埴輪や円筒埴輪は埼玉古墳群中の同時期の古墳に運ばれたと推定される。



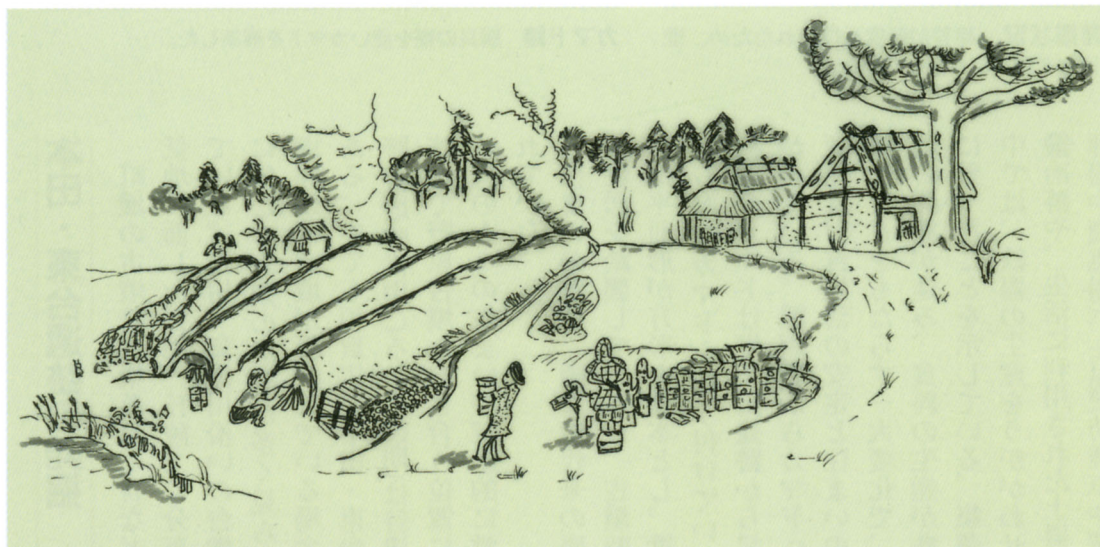
権現坂遺跡の粘土採掘場 白色粘土層を採掘していた。



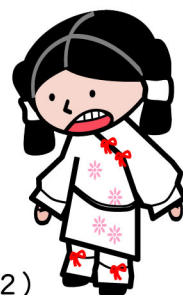
窯中の埴輪 姥ヶ沢埴輪窯で台に転用された埴輪。



かけき
戈戟を持つ盾持人埴輪
権現坂遺跡の粘土採掘場より出土した。



権現坂窯での埴輪焼きの想定



熊谷市立江南文化財センター (住所：熊谷市千代329 電話：048-536-5062)

参考文献 江南町教育委員会 2005 『江南町のあゆみ』 江南町史普及版